

国際情報学会 総合情報研究部会
第三回 「情報交流会」 報告書

日本国際情報学会の分科会である総合情報研究部会では、平成24年5月19日福岡での勉強会に引き続き11月17日に第三回勉強会を開催しました。

記

日程：平成24年11月17日 14時～17時

場所：衆議院第一議員会館 10階会議室

開催の趣旨： 昨今、メディアの信憑性を疑うような報道が散見されます。社会に起きている事象を、直接現場の方々から話を聞き、現場の報告とメディアの報道を比べ、研究者として再検証する必要があります。そのような場として、第3回勉強会を企画しました。

プログラム：

14時00分～15時30分 星 亮一『原発事故、フクシマ復興の現状』プレゼン&Q&A

15時30分～16時30分 宮田 敦司『尖閣・竹島問題について、元防衛省中国・朝鮮半島担当の見方から』 Q&A

16時30分～17時00分 長井 壽満 『帝国という国家、600年続いたオスマン帝国の統治概念』 Q&A

参加： 19名

総評

現在進行形のテーマのせいも、参加者が19名、福岡、東北と各地から来て頂きました。東日本大震災3.11から約一年半、やっと復興に必要なデータが揃ってきた頃です。

郡山在住で復興活動行っている星亮一さんから、現地の問題を話して頂きました。日本の縮図、政治の役割、日本が抱えている問題が浮き出されました。

宮田敦司さんの尖閣・竹島問題は日本の戦後外交が積み残した問題点を、韓国・中国の視点から分析する手法により非常に説得力のあるプレゼンでした。

星さん、宮田さんのプレゼンの内容が豊富な為、長井寿満さんからは、10月中時の中国側メディアの尖閣報道を短い時間で報告ありました。日中間の関係改善は日本の総選挙後、新内閣次第であると説明あり。

時間不足で総合討議の時間は取れませんでした。

本勉強会は1月総選挙を想定し、12月は忙しくならぬだろうという予想の元に小宮山泰子衆議院議員に会議室の予約お願いしました。ところが勉強会の前日16日に国会解散が決まりました。本勉強会での議論は、総選挙に密接に関係しており、奇しくもタイムリーな企画になりました。

以上

(文責：長井)

